

JCAA NEWS

臨床美術
JAPAN CLINICAL ART ASSOCIATION

Vol.

66

2024
SPRING

臨床美術士を訪ねて

臨床美術学会 第14回大会2023 報告

TOPICS

芸術造形研究所の通販サイト
「zoukei.store」がOPENしました!

協会からのお知らせ

指定校・芸術造形研究所からの
お知らせ



アートプログラム
「花文字アート」

特別対談

(株) 芸術造形研究所 代表取締役社長

大久保 伸一

(株) 芸術造形研究所 取締役

高木 啓多

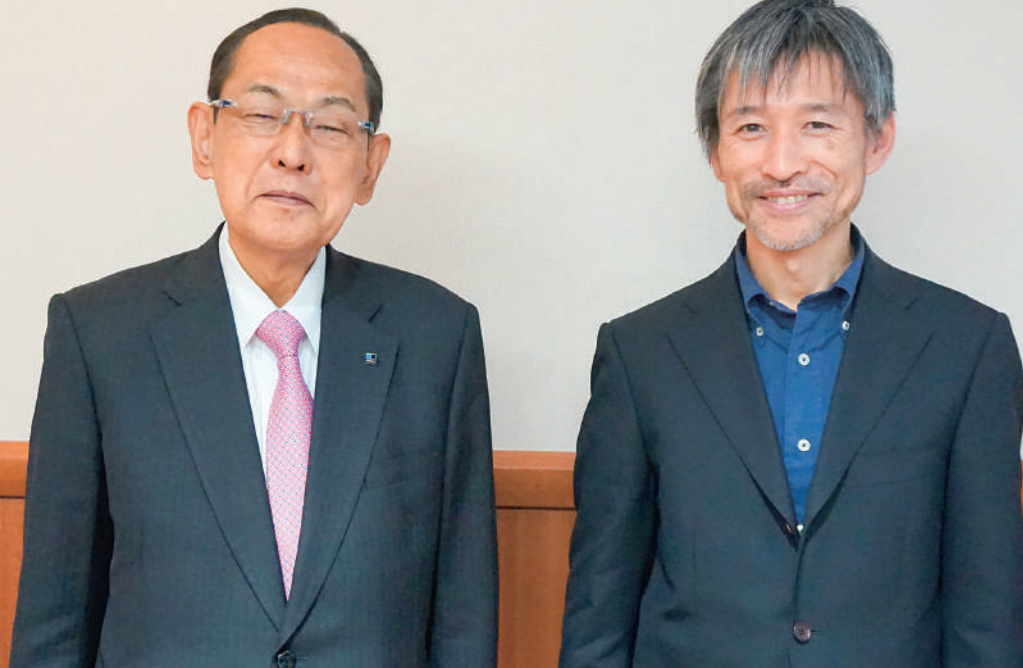
臨床美術を社会で 活かしていくために



特定非営利活動法人

日本臨床美術協会

Japan Clinical Art Association



(株) 芸術造形研究所 代表取締役社長

大久保 伸一

(株) 芸術造形研究所 取締役

高木 啓多

特別対談

臨床美術を社会で活かしていくために

芸術造形研究所の新取締役に高木啓多氏が就任。これからの芸術造形研究所、そして臨床美術の未来について、代表取締役社長の大久保伸一氏と語っていただきました。(聞き手：編集部)

—高木さんは10年以上、臨床美術士として第一線で活動されてきましたが、今回、取締役に就任されての思いをお聞かせください。

高木取締役(以下、高木)：これまで神奈川県鎌倉市を中心に0歳児から高齢者、認知症から障がいのある方まで様々な現場をやっていました。多い時で月に40カ所、450人くらいですね。今回、取締役にとお声がけいただいて、臨床美術士としてお世話になった方々と共に何かしたい、恩返ししたいという気持ちもありましたし、元々、ケアする人をケアしたいという思いがずっとあったのでお引き受けしました。これまでと立場は違っても、現場が基本であり、「相

手に向いている」ことに変わりはありません。自分の現場が臨床美術のセッションから会社になった、という感覚ですね。

—コロナ禍があり、それが落ち着いてきて、この先の臨床美術はどのようになっていくとお考えですか。

大久保社長(以下、大久保)：人間が何かをなそうとする時、必ず抵抗勢力というものが見えます。その相手は人間とは限りなく、災害かもしれないし、ウイルスかもしれない。人はそれを乗り越えることによって、また新しい力が与えられて発展していく。そういう、世の中の仕組みの1つだと思っています。

高木：抵抗があることって必要なことかもしれないですね。臨床美術にも「土偶を作る」というカリキュラムがあるのですが、粘土が柔らかすぎると、ちゃんと形にならない。こちらのエネルギーを返してくれる粘土を選んで、いわば自分と粘土と共に作っていくことが必要なんですよ。

大久保：成長するために与えられた試練に前向きに向かっていく。それは臨床美術にもあてはまることだと思います。体験すれば「これはいい」と誰もが言ってくれるけど、その広がりや限定的なものには何らかの要因があるはず。その要因を克服した時、臨床美術の価値が世界的に上がると考えています。戦争やAIの台頭など混沌とし

た世界の中で、臨床美術を体験すること、そして実際に活かしていくことが重要だと思います。極端に言えば臨床美術が人類を救う。

高木: 本当に、臨床美術はそのポジションにあると思います。そもそも人類にはアートが必要で、そのアートへのコンタクトをすごく簡単にしているのが臨床美術です。アートで得られる無心になる感覚や瞑想のような感覚。その感覚を、絵が嫌いで小学校以来絵を描いていないような人が美大に行かなくても得られるってところですよ。

上手い下手ではなくて、気持ちが乗って描いた絵というのはその気持ちが相手まで届く。臨床美術の絵を作品展でずらっと並べると、テーマも個性も人それぞれ違うけれど不思議と統一感も感じる。自分の深いところから表現できると、いわば地下水脈の部分で作品と作品、人と人がつながると思いました。

—コロナをきっかけにオンラインでのセッションも増えてきました。オンラインだからこそできることや広がりもありますね。

高木: 対面で思うようにできないという経験を踏まえた臨床美術の発展形の1つは「そぎ落とし」もあると思います。当たり前のようにアナログでやっていたけど、できなくなったからこそリモートでできる方法を考えた。それでは臨床美術っていったい何なのか？アナログとリモートの共通点こそが臨床美術の本質だと思います。

例えばリモートで絵の細部は見えなくても、その人がのめり込んでいるかどうかは感じることができる。再びアナログに戻った時、絵を見なくてもその人がどんな状態か感じ取れるのか。そこが臨床美術の伸びしろかもしれません。

大久保: 臨床美術士がいる場所ってけっこう偏りがあって、全然いない地域もある。そういう場所で体験してもらうには、リモートは非常に適している。TOPPANでは、親子で一緒に臨床美術をやる「はぐくみアートサロン」という取り組みをやっているけれど、小さい子どもを連れてくるのってかなり大変です。でも自分の家でできれば何の問題もない。そういう分野でも発展の余地があるんじゃないかと思います。

高木: アートってもともと垣根をなくすものだと思っていて、人と人、社員同士、親と子、

認知症とそうでない人、マイノリティとマジョリティ…。テクノロジーで距離がなくなり、オンデマンドで時間の制約がなくなった。そこをうまく使って、さらに境界線をなくしていきたいですね。

—芸術造形研究所としては、今後どのように臨床美術を広めていこうとお考えですか。

大久保: コミュニケーションで課題を抱えているケースはいっぱいあります。最近、特にその傾向が強くなっている気がする。つまりそれは、臨床美術に課せられている課題や役割がどんどん大きくなってきているということ。臨床美術を「世の中の常識」みたいなものにしていくことで、この問題がかなり解決されますよね。

高木: 芸術造形研究所のミッションですね。

大久保: まず体験してもらうことが重要。いろいろな媒体を使ったり、マスコミに知ってもらう必要もあるけれど、一番大事なのは、臨床美術のファンと一緒に活動していただける同志をどれだけ増やせるかだと思います。

高木: そのためには、現場の臨床美術士のサポート、何に困っているかを実際に聞いて解決していくことも大事ですね。ちゃんと臨床美術ができるようにするには何が課題なのか。こちらが想像するのではなく、現場の声を拾って具体的な解決策を提示する必要があります。

大久保: 学校でテストのために学んだことは忘れてしまうけど、子どもの頃に絵を褒められたことはすごく覚えている。子どもたちに臨床美術を体験してもらって、褒められる経験をしてもらうことも重要ですね。その子が成長してまた自分の子どもに臨床美術をやって。時間はかかるけどこうした循環を作っていく。「あの時の経験があったから今がある」というファンを増やしていくのも大事だと思います。



—経産省のレポートに臨床美術が掲載されたり、研修に取り入れる企業も増えてきています。臨床美術士の現場が増えていく流れが少しずつできていると思いますが、これからも企業等とのコラボレーションは進めていかれるのでしょうか。

高木: コラボレーションは時代のトレンドというかならぬので、積極的にやっつけていかないといけないと思っています。例えば臨床美術を要素分解した時に、コミュニケーションとして使えるのであればその部分でどこかと組む。あるいはプログラムとしての要素があるのであれば、そこを何かをくっつけて提案する。臨床美術の全体というよりも、臨床美術の持っている要素と何か、という「部分」でのコラボレーションですね。単純に企業と組むというより、その企業が持っている得意な部分と臨床美術が持っている得意な部分を組み合わせる企画提案できればいいと思います。

大久保: 損得勘定なしに、人のためになることは長く続きますからね。仏教だって2500年ぐらい続いていて、神社仏閣も日本にはたくさんある。大切なのは、いかに信念を持って「思い」を実現していくかだと思います。

高木: その「思い」をビジネスとして実装していく必要がありますね。芸術造形研究所って宝の山だと思うんですよ。それをいかに外に出していくか。様々な企業や団体と接点を持ちながら、今までとは違った打ち出し方をしていきたいと思っています。

大久保: 昔は臨床美術の話をして「それはいいですね」で終わっていたけれど、最近は実際に体験してもらって導入してもらうなど、次のステップに進めるようになった。これはかなり違う時代になってきたなと実感しています。

高木: 時代が必要としていますね。これからです。



臨床美術士を訪ねて

昨年、メディアで臨床美術の現場が紹介されたお二人に、活動についてお話しいただきました。
(青木さんは松代テレビ局、河村さんは三重テレビにて紹介)

臨床美術士4級
アトリエらいふ 主宰
青木由美子さん
長野県長野市



教室情報



上手い下手という評価基準が無くなり、 自分自身が安心して表現できるようになりました!

中学校で美術の講師をしていたのですが、子供たちを評価することにすごく葛藤を覚えていました。「アートに上手い下手はない」という臨床美術の考え方をネットで見たことと、特別支援の子供たちにむけての「療育」という観点からも効果があることを知り、興味を覚えました。

現在は、長野市で臨床美術の体験の機会を増やす取り組みをしています。具体的には3、4か所の施設でそれぞれ月1回の講座を開催しています。SNSを使って宣伝し、毎回異なる方が参加されています。徐々に定期的に参加して下さる方もできました。また、高齢者福祉事業の「かがやきひろば」でも講座を持たせていただいています。

臨床美術に関わったことで、私自身がエネルギーを蓄えることができたと感じています。上手下手、正解不正解という価値観に囚われている方はたくさんいます。そうした方々に臨床美術でエネルギーをチャージしてもらい、人生の推進剤にして欲しいと思っています。

私は臨床美術を学んだことで「こうあらねばならない」という意識が大きく外れました。臨床美術は私にとって魔法の道具で、本当にいいものだとか心から感じています。そうした思いがあるからこそ、地域での営業活動にも一歩踏み込んでいくことができます。

臨床美術士3級
ろこアート造形・絵画教室 主宰
河村裕子さん
三重県桑名市



教室情報



具体的な目標を持つこと、オンラインで 仲間とつながることでスキルアップしています

臨床美術との出会いは、父が認知症になり、美術で何かできないか探したのがきっかけでした。また、デザインの仕事を退職した後、地域の子育てサークルで絵画を教える際に「五感を使う」という考え方が子供たちへの指導にもいいのではないかと考え、臨床美術士を目指しました。

資格取得後は自宅で子供たちに臨床美術を実施しています。プログラムの内容をLINEで告知して参加人数を把握しています。その他に、児童発達支援・放課後等デイサービスや高齢者施設などで講座を開講したり、小中学校でも年2回、講座を開く機会をいただいています。

臨床美術を子供たちに知ってもらうために、

いろいろな機会を通して活動をしたいと考えています。日本の学校教育自体が、子ども同士が認め合う現場になって欲しい。そのための働きかけができればいいなと思っています。

臨床美術士として活動する上で、自分自身でスキルを磨いたりキャリアを積んでいくことも大切だと思っています。例えば「あの先生みたいになりたい」と具体的な目標を持つのも一つの方法で、私の場合は、福岡県久留米市の菅原良子先生のオンラインレッスンに、他の臨床美術士たちと参加しています。実力を磨く上でも、抱えている問題を解決する上でも、貴重な機会になっています。

日本臨床美術協会のホームページでは、会員の皆様のメディア掲載情報をご紹介します。
活動の励みになりますので、ホームページへの掲載をご了承いただける方は、協会事務局にご投稿ください。

<投稿先> Email:association@arttherapy.gr.jp

臨床美術学会 第14回大会2023 報告

大会テーマ「包括的ケアとしての臨床美術の可能性」

昨年に引き続き、オンライン形式で2023年11月18日(土)、19日(日)に、臨床美術学会第14回大会が開催され、115名が参加しました。

臨床美術の活動を大きな視点でとらえ、臨床美術が発展していくために、どのようにつながっていくかを考える大会となりました。



< 大会シンポジウム >

【テーマ】

「包括的ケアとしての臨床美術実践」

【座長】

● 関根 一夫 氏

(医療法人社団信悠会木村クリニック理事 / MACF 牧師)

【シンポジスト】

● 川久保 悦子 氏

(城西国際大学看護学部准教授)

● 佐藤 敏美 氏

(臨床美術士 / 医療法人社団北條会デイケアうさぎ 臨床美術チームリーダー)

● 馬淵 聖子 氏

(TOPPANホールディングス株式会社 人事労政本部 人事労政部長)

関根氏を座長とし、今回は立場の異なる先生方をシンポジストとしてお迎えし、それぞれのフィールドからの臨床美術の役割や可能性について発表いただきました。

川久保氏は認知症高齢者へのビジュアルアートセラピーのメカニズムについて文献をもとに解説し、アートセラピーのエビデンスと評価方法について述べられました。次に佐藤氏より、デイサービス参加者のインタビュー動画が紹介され、アートを介したコミュニケーションと人と向き合うときの想像力の大切さについてお話しいただきました。最後に馬淵氏が社員の心のリフレッシュを目的に臨床美術を導入し、コミュニケーションや絆の深化が認められたこと、今後、Well-Being 実現のために臨床美術が広く認知され機能してゆくことへの期待が語られました。

< 特別講演 >

【特別講演テーマ】

「脳および精神科医療からみるアート～精神科外来におけるアートとの関わり～」

● 玉井 顯 氏

(医療法人 敦賀温泉病院 理事長)

玉井氏より脳とアートの可能性を、統合失調症、発達障がい、不安障がい等の実例をあげながらご説明いただきました。また、精神外来において、アートは診断や治療、評価やリハビリテーションに関わりがあることをご紹介いただき、様々な形でアートが活用され、アートが Well-Being (心理的、社会的幸福感) を生み出しているといったお話もあり、臨床美術士にとっても励みになる内容でした。

< 自主シンポジウム >

本大会から、学会員自らが自主的に、本学会の趣旨に沿った臨床美術に関わるテーマ、司会者などを設定し、運営する自主シンポジウムを行いました。フルイミエコ氏の司会のもと、島根千尋氏、土門環氏を迎え、「臨床美術士の知恵袋～あなたのお困りごとは!？」というテーマで、臨床美術士から寄せられた現場での工夫が数多く紹介されました。臨床美術士の活動に大変役立つ情報交流の場となりました。

< 研究発表 >

臨床美術士による3件の研究発表がありました。アートプログラムの実施例と終身型介護付有料老人ホームの入居者対象の実例をもとに、臨床美術が高齢者に与える影響と、施設で担っている臨床美術士の役割について発表がありました。

【テーマ】

制作場面を通じた相互交渉における語りの特徴と快の感情的変化
～臨床美術アートプログラムを通して～

【発表者】

● 安齋 章子 氏

(志木市立教育サポートセンター)

● 上村 佳世子 氏

(文京学院大学人間学部)

【テーマ】

制作者から多彩な表現を引き出す臨床美術のアートプログラム
～アートプログラム「のびるね!」を実施例として～

【発表者】

● 池原 裕可里 氏 (臨床美術士)

【テーマ】

私らしくいられる瞬間
～臨床美術で繋がる笑顔の輪～

【発表者】

● 倉吉 明美 氏 (臨床美術士)

● 新井 明子 氏 (臨床美術士)

臨床美術学会大会は基調講演、研究発表、シンポジウムなどを通じて様々な情報を得ることができます。2024年度は、臨床美術学会第15回大会2024を11月16日(土)、17日(日)に開催する予定です。是非、皆さまご参加ください。

1

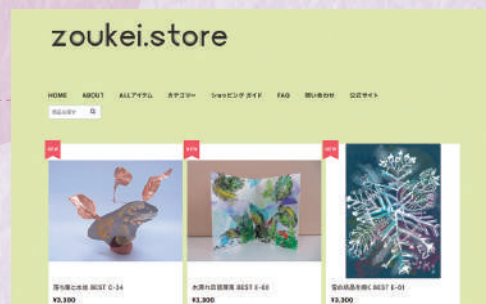
芸術造形研究所の通販サイト「zoukei.store」がOPENしました!

通販サイトで「臨床美術アートプログラム」をご購入いただけます。
これまでよりずっと便利に!

- 商品名や主な画材、季節などで検索が可能
- 選べるお支払い方法

- ・クレジット決済
- ・キャリア決済
(docomo、auかんたん決済、ソフトバンク)
- ・銀行振込
- ・コンビニ決済

※「zoukei.store」は臨床美術士の方の専用サイトです。
※これまで通りメールやFAXでのご注文も可能です。



▼URL

「zoukei.store」 <https://zoukeistore.official.ec/>

★ログインパスワードは2月5日配信のメルマガをご確認ください
※パスワードに関するお問い合わせは「e-gazai@zoukei.co.jp」までお願いします。

2

みんなでお話し
しませんか?

交流会のお知らせ

日本臨床美術協会では様々な交流会(参加無料)を開催しています。

2024年度は、会員同士で情報交換したい!悩みや喜びを共有したい!皆さまにお知らせしたい!など、会員の皆さまから、なんでもあり!!の発表をしていただき、会員同士で情報交換をしていただく交流会を開催します。お一人5分程度で告知したい事や情報交換したいテーマを募集します。ご希望の時期と合わせてお知らせください。詳細については決まり次第、ホームページやメールマガジンでご案内いたします。是非、気楽に発表いただき、活動のきっかけ、原動力にしませんか?



日本臨床美術協会ホームページ
<http://www.arttherapy.gr.jp/>

アンケートご協力をお願い
皆さまのお声をお聞かせください。



活動状況について



JCAについて

Topics

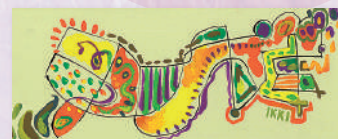
会員のみなさまに特にお知らせしたい情報をピックアップしてお届けします。

3

表紙掲載 アートプログラム紹介

BESTシリーズに新たに加わった春にぴったりのアートプログラムを紹介します!

BESTシリーズ
最新アートプログラム
[E-66]「花文字アート」
完成作品サイズ:36.4×15cm



花の名前をカタカナ、ひらがなで書いた文字同士を線でつなげていくことで、文字が変化していく面白さを体験できます。さらにアクリル絵具で色を描き加えていくことで、文字が抽象絵画になっていくプロセスを楽しめます。

協会からのお知らせ

2024年度 オンライン定期総会のお知らせ



2024年度オンライン定期総会を開催いたします。

●日時

2024年5月26日(日) 16:00~17:30

●議案

- (1) 2023年度事業報告と決算について
- (2) 2024年度事業計画と予算について
- (3) その他

★出欠の連絡をお願いします

昨年度より、オンライン上で出欠連絡が可能となりました。QRコードもしくは、同封しております「定期総会出欠はがき」にて5月6日(月)までにご回答をお願いいたします。なお、はがきにてご回答の場合には、個人情報保護のため同封の保護シールを貼ってご返送ください。

また、欠席の場合は、委任状の提出をお願いいたします。委任状を提出すると、出席者と同様に資格更新制度の単位取得対象となり、取得単位数は5単位となります。

2024年度 会員証について

2024年2月29日(木) までに年会費をお支払いいただいた方に、2024年度会員証を同封させていただきます。なお、コンビニエンスストア専用支払伝票にてお支払いされた場合、入金の確認までお時間がかかる場合がございますので、確認でき次第、会員証を送付させていただきます。

※2024年度会員証の有効期限を、会員証送付時期の都合上、2024年4月1日~2025年4月30日までとしております。

《会員証の確認と取扱いについて》

- ①ご自身の会員証の記載内容(お名前・認定級・会員番号・次回資格更新日)について、相違がないかご確認ください。
- ②「会員証」はストラップケースに入れ、臨床美術を実施される際、交流会・研修会等に参加する際には、認定バッジと共に必ず着用してください。
- ③紛失等による会員証の再発行には手数料550円(税込)と、別途送料がかかります。

2024年度 年会費 (お支払いがお済みでない方)

年会費をお支払いがお済みでない方は下記までお早めにお振込みください。年会費が未納の場合、臨床美術士として活動ができなくなり、協会会員の特典が受けられなくなります。

●2024年度年会費 11,000円(税込)

特定の「振り込み用紙」はございませんので、ATMまたは窓口にてお振り込みください。

郵便局からの場合

郵便振替口座 00150-4-740354

他金融機関からの場合

ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキョウ)店(019) 当座 0740354

特定非営利活動法人 日本臨床美術協会

*通信欄に「氏名」「会員番号」をご記入ください。

資格更新規則の変更・資格更新申請方法の変更について

単位取得ルールについて、会員の皆様より多数の貴重なご意見をいただき、資格規定の改訂を行うことになりました。

- 【変更点】 ●昇級前に取得した単位は、昇級後も持ち越し可
●取得単位に有効期限を設けない

【開始時期】 2024年4月1日 ※2024年4月1日以前に取得した単位についても、今回の改訂を適用いたします。

また、併せて資格更新申請方法も変更となり、メール、もしくは資格申請フォームでも受付可能となりました。是非、ご活用ください。

改めてのご案内となりますが、資格更新受付期間は資格更新日の6か月前からとなります。それ以前にご提出いただいても、受理いたしかねますので、あらかじめご了承ください。ご自身の資格更新日を確認の上、申請いただきますようお願いいたします。

なお、単位集積記録表、及び活動報告書については、ホームページよりダウンロードが可能です。申請方法変更に伴い、Excelデータのダウンロードも可能となりますので、ご活用ください。

資格申請
フォームは
こちら



単位集積記録表・
活動報告書の
ダウンロードは
こちら



指定校からのお知らせ

ひろしま美術研究所

【申込窓口】ひろしま美術研究所

●臨床美術士資格取得講座

TEL : 082-506-3060 E-mail : ach@art-hiroshima.com

	講座名	日程	申込締切日
5級	2024年6月期	2024年6月2日(日)・6月9日(日)・6月16日(日)・6月23日(日)・6月30日(日)	5月16日(木)
	2025年1月期	2025年1月12日(日)・1月26日(日)・2月9日(日)・2月16日(日)・2月23日(日)	12月19日(木)

※各地の最新の研修会情報は芸術造形研究所のホームページよりご確認ください。

指定校からのお知らせ

東北福祉大学 地域創生推進センター
地域創生推進室 仙台元気塾

【申込窓口】東北福祉大学 地域創生推進センター
地域創生推進室 仙台元気塾 TEL: 022-742-2886

●臨床美術士資格取得講座

講座名	日程	申込締切日
2024年5月期	2024年5月26日(日)・6月9日(日)・6月23日(日)・7月7日(日)・7月21日(日)	5月10日(金)
5級 2024年10月期	2024年10月26日(土)・10月27日(日)・11月10日(日)・11月24日(日)・12月8日(日)・12月21日(土)・12月22日(日)	10月11日(金)

※各地の最新の研修会情報は芸術造形研究所のホームページよりご確認ください。

芸術造形研究所からのお知らせ

●臨床美術士資格取得講座

	講座名	期間	会場	申込締切日
通学	2024年4月期 水曜日クラス or 土曜日クラス	全6日間(前半3日間・後半3日間)	会場: 東京	4月3日(水)
	2024年夏季 特別クラス	全5日間	会場: 東京	7月18日(木)
	2024年10月期 水曜日クラス or 土曜日クラス	全6日間(前半3日間・後半3日間)	会場: 東京	10月9日(水)
	2025年1月期 水曜日クラス or 土曜日クラス	全6日間(前半3日間・後半3日間)	会場: 東京	1月8日(水)
	2024年4月期 水曜日クラス or 土曜日クラス	全9日間(前半4日間・後半5日間)	会場: 東京	3月27日(水)
	2024年夏季 特別クラス	全7日間	会場: 東京	7月11日(木)
	2024年9月期 水曜日クラス or 土曜日クラス	全9日間(前半4日間・後半5日間)	会場: 東京	8月21日(水)
	2025年1月期 水曜日クラス or 土曜日クラス	全9日間(前半4日間・後半5日間)	会場: 東京	12月14日(土)
通信	2024年4月期 4月13日(土) スクーリング(対面)	1日間+5カ月	会場: 東京	3月21日(木)
	2024年6月期 6月15日(土) スクーリング(対面)	1日間+5カ月	会場: 京都	5月23日(木)
	2024年7月期 7月6日(土) スクーリング(対面)	1日間+5カ月	会場: 東京	6月13日(木)
	2024年10月期 10月5日(土) スクーリング(対面)	1日間+5カ月	会場: 京都	9月12日(木)
	2024年12月期 12月7日(土)・8(日) スクーリング(オンライン)	2日間+5カ月	Zoom開催	11月7日(木)
	2025年1月期 1月11日(土) スクーリング(対面)	1日間+5カ月	会場: 東京	12月19日(木)
	2024年8月期 8月3日(土)・4日(日) スクーリング(対面)	2日間+5カ月	会場: 京都	7月11日(木)
2025年2月期 2月15日(土)・16日(日) スクーリング(対面)	2日間+5カ月	会場: 東京	1月23日(木)	
オンライン	2024年5月期 イブニングクラス(水曜日夜クラス)	全16日間	Zoom開催	4月17日(水)
	2024年7月期 日曜日クラス	全6日間(前半3日間・後半3日間)	Zoom開催	6月27日(木)
	2024年12月期 金曜日クラス	全6日間(前半3日間・後半3日間)	Zoom開催	11月14日(木)
	2024年7月期 金曜日クラス	全9日間(前半4日間・後半5日間)	Zoom開催	6月13日(木)
	2024年10月期 イブニングクラス(水曜日夜クラス)	全19日間	Zoom開催	9月12日(木)
	2024年11月期 日曜日クラス	全9日間(前半4日間・後半5日間)	Zoom開催	10月31日(木)

※東京校では上記講座の他、感性アートゼミ(オンデマンド)ほか各種講座、研修会も開講しています。
詳しくは芸術造形研究所のホームページでご確認いただくか、担当までお問合せください。

【申込窓口】芸術造形研究所

●通学講座・オンライン講座 TEL: 03-5282-0210 E-mail: school@zoukei.co.jp
●通信教育 TEL: 03-5282-0210 E-mail: tsushin@zoukei.co.jp

※予定されている講座につきましては、中止または変更になる場合があります。予めご了承ください。